

## 放射線被ばくと甲状腺がんの情報

### 緊急被ばく医療対応に関する情報サイト

福島第一原発の事故後、千葉県や東京都の浄水場でも基準値を超える放射性ヨウ素が検出され、これも福島第一発電所の事故の影響だと言われています。そのため、特に乳幼児を持つ家庭で、小児の甲状腺内部被ばくや将来の甲状腺がん発症が心配されているようです。

1986年の旧ソ連邦時代のチェルノブイリ原発事故の場合、1週間も事実が秘匿され、その後の退避命令もなく、5年10年後に、汚染された土壌からの乳製品や野菜などから経口摂取された内部被ばくで小児甲状腺がんが多発しました。日本も最初のうちは電力会社や保安院が混乱して、どうなっているのか不安でしたが、以後は詳細がずっと国民に報告されています(だと思います)。甲状腺治療や放射線医学の専門家も事態の推移を注意深く見守っているようです。色も臭いも味もない放射能汚染は自衛のしようがないので、政府の先手の対応に頼るしかないのがもどかしいところですが、騒いでパニックになるのも問題です。

「日本甲状腺がん学会」のホームページに、放射線による甲状腺がん発症の問題について、一般市民に分かりやすい解説と助言が掲載されています。乳幼児を持つご家族は、こうした専門の立場からのコメントおよび助言をお読みいただければ、と思います。

無差別にヨードなら何でも取り込む性質のある甲状腺を、先に無害なヨードで満たすことによって、放射性ヨウ素による甲状腺被ばくを予防する薬「安定ヨウ素剤」は、服用が早すぎても、遅すぎても、効果がないとのこと。服用のタイミングは一般市民には判断しにくいことですし、医師の処方が必要な緊急避難的な薬です。

日本政府と専門家は、チェルノブイリ原発事故の際の、隣国ポーランド政府のように絶妙のタイミングで対処していただき、子供たちの将来の健康を守ってほしいと願います。私たちが焦ってヨードが入ったうがい薬や、ワカメなどの海藻を大量に食べても意味がないばかりか、かえって身体を壊すとのこと。こうした情報は、甲状腺学会のホームページの「緊急被ばく医療対応に関する情報サイト」から得られます。

日本甲状腺学会ホームページ <http://www.japanthyroid.jp/>

福島県いわき市にある、甲状腺がん手術後のホルモン補充療法に欠かせない甲状腺ホルモン製剤「チラージン」の生産工場が被災しました。ここは現在日本で使われているチラージンのほとんどを生産している工場、甲状腺を摘出してチラージンのお世話になっている私たち患者も医師も、「どうしよう・・・」と不安になったのですが、関係者の迅速な対応で、工場の稼働が再開され、日本の甲状腺医療に混乱は避けられそうです。そういった最新ニュースも、このページから知ることができます。

2011年3月24日

文責・波多江伸子（甲状腺がん体験者）